

麦

1 予報（5月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
うどんこ病	—	並	(1) 耐病性の強い品種が、広く作付けされている。(—) (2) 播種後が温暖で経過し、麦の生育量が多い。(+) (3) 5月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並であり、特に発生を助長する条件ではない。(±)
赤かび病	やや早	やや多	(1) ゆきちからの幼穂形成期は平年より4日早い(作況圃)。 (2) 5月の気温は平年並か高い予報。 (3) 前年の発生圃場率は、平年より高かった。(+) (4) 赤かび病抵抗性「やや弱」品種「ゆきちから」の作付けが多い。(+) (5) 5月の降水量は、ほぼ平年並であり、特に発生を助長する条件ではない。(±)
赤さび病	—	やや多	(1) 耐病性の強い品種が、広く作付けされている。(—) (2) 播種後が温暖で経過し、麦の生育量が多い。(+) (3) 5月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並であり、感染に好適な条件。(+)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(—)：少発要因、(--)：重要な少発要因

2 防除のポイント

【うどんこ病】

- (1) 前年及び既に発生が見られた圃場では、防除を実施する。
- (2) 防除時期の目安は、穂ばらみ期及びその7～10日後である。

【赤かび病】

- (1) 赤かび病菌は、開花した穂に感染する。このため、開花期の防除が最も効果的である。ナンブコムギ、銀河のちからは、開花期の1回防除で効果が得られる。ゆきちからは、開花期と開花7～10日後の2回防除が必要である(表1)。
- (2) 開花期以降に曇雨天が続く場合、ナンブコムギ、銀河のちからは1回目散布の7～10日後に、ゆきちからは2回目散布のさらに7～10日後に、追加防除を実施する(表1)。

表1 小麦主要品種の防除適期

品種名	赤かび病抵抗性	防除適期		
		開花期 (1回目散布)	1回目散布の7～10日後 (2回目散布)	2回目散布の7～10日後
ナンブコムギ 銀河のちから	中	必須	状況に応じて追加散布	—
ゆきちから	やや弱	必須	必須	状況に応じて追加散布

【赤さび病】

- (1) 前年及び既に発生が見られた圃場では、防除を実施する。
- (2) 防除適期は、発病が見られた時及びその7～10日後である。
- (3) 下葉からまん延するので、下葉にも十分薬液がつくように散布する。

3 防除上の留意事項

- (1) 同一薬剤の連用又は同系薬剤の連用は、耐性菌の生じる恐れがあるので、効果の高い薬剤を輪番で使用する。